

令和6年度第2回北杜市図書館協議会会議録

1. 会議名：令和6年度第2回北杜市図書館協議会
2. 開催日時：令和6年9月26日（木）午後2時～4時
3. 開催場所：金田一春彦記念図書館 SV ホール
4. 出席者：協議会委員 小澤 志保子／坂本 ひろみ／坂本 美里／佐野 恭子／仲田 君恵
望月 淳一／佐野 隆（欠席）／仁科 恭子（欠席）
事務局 中澤 徹也(中央図書館長)
大塚 美智子／河野 明美(中央図書館総務担当)
菊見 理恵(学校図書館司書代表)
5. 議事録署名委員指名：仲田 君恵委員 坂本 美里委員
6. 会長あいさつ
7. 議事
 - (1) 令和5年度 北杜市図書館事業報告について
 - (2) 第四次北杜市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
 - (3) 各図書館の近況報告について（こども図書館まつりの準備状況など）
 - (4) その他
8. その他
9. 傍聴人の数：8人

議 事

(1) 令和5年度 北杜市図書館事業報告について

事務局より資料1に基づき説明

本事業報告書は、令和5年度のデータを集計し、8月に完成させたものである。2ページから説明したい。まず北杜市の図書館の概要ということで、7町村の合併と1市1町の合併の経緯を記載している。

2番は令和5年度の決算状況。図書館費としては、総額で1億6177万2837円となっている。その中の図書館管理費として、施設管理費、施設の維持管理といったところがメインとなるが、その費用については2816万1098円となっている。また事業等を行う図書館の運営事業費については、1378万9264円となっている。運営事業費の中の主な支出の中に図書資料購入費があるが、図書費として910万2706円が決算上の数字となっている。この他、視聴覚資料については39万5208円となっている。続いてブックスタートについては、プレゼント本の購入ということで、14万5937円。ボランティアの研修は主に講師の謝礼となるが、5万777円となっている。また、共生ビジョンの図書館の相互利用ということで、こちらについては富士見町、原村、北杜市との相互利用の促進事業を行っているわけだが、相互貸借があった場合に、本の物流の運搬費用をここで支出しており、4670円という決算状況となっている。

3番の職員体制については中央図書館は館長が1人と総務担当2人という体制となっている。各図書館については、日給職員が全体で25人となっている。途中で出入りもあり人数の変動もあったが、令和5年度末の数字となっている。表の一番右側の時給職員については、日給職員が休みの

ときやイベント等のときに入る職員ということで21人の登録という形になっている。

続いて3ページ、4番の図書館事業について。図書館は各図書館でそれぞれ事業を行っているが、ここには全体で行っている事業を掲載している。まず最初に上から2番目のブックスタートについて。これは、子どもの12ヶ月健診に合わせて図書館職員が出向き、読み聞かせのすすめとともに絵本のプレゼントを行った。また、本の杜への招待状は、図書館で行っている定例おはなし会への参加を促すことを目的に、3歳児健診に合わせて案内を行った。マタニティカフェでは、これから出産育児を迎える方を対象に、「今日から始める読み聞かせ」と題して、絵本を使った赤ちゃんとの触れ合いのすすめを行った。大人のための朗読会「やまびこ」は、市内の図書館の朗読ボランティアが集まり、毎月第3金曜日に朗読発表会という形で開催した。11月には150回記念の朗読会を高根ふれあい交流ホールで行った。土曜ことば楽は言葉に関する講座を定期的に行っており、令和5年度は2回開催した。毎回進行を金田一春彦先生の長女、田中美奈子さんをお願いしている。1回目を金田一真澄先生、2回目を登山家の花谷泰広氏に講師をお願いし、大変盛況だった。ボランティア研修は、8月31日に長坂コミュニティステーションで絵本翻訳家のさくまゆみこ先生を招き、世界の様々な本を翻訳されている方ならではの話を伺った。また、やまね便りを年2回発行し、図書館の紹介や本の紹介も含めPRを行った。一番下になるが、八ヶ岳定住自立圏の図書館連携事業ということで、富士見町、原村と共通テーマに基づいた展示を行った。昨年度はテーマを合わせた展示を3回行うと同時に、3市町村の図書館を巡ってスタンプを集めると記念品がもらえるというスタンプラリーも行った。かなり大勢の方に巡っていただいたが、更にもっと広くこの圏域を活発にできたらいいと思っている。相互貸借については、通年で行っている。

続いて4ページ。5番になるが、図書館協議会ということで、協議会については委員が計8名。任期については令和5年の4月1日から令和7年の3月31日までとなっている。令和5年については全2回、8月22日と2月15日に開催した。今年度については、2回以上ということで、回数を増やすということで考えている。

続いて6番目になるが、北杜市図書館会議開催状況。市内8館が同じサービスを提供出来るように、事務的な運用の申し合わせ等も含め月1回図書館の運営会議を行った。選書会議は年24回行った。8図書館が自由に本を選ぶということではなく、8館を1館と捉え、限られた資料費の中で、各図書館が同じ本を買えないように調整をしていく会議となる。選書をしっかりとする中で住民サービスを充実させていきたいと考えている。

続いて5ページをご覧ください。北杜市図書館の利用状況となる。まずアの年齢別総登録者。令和5年度末の登録者数は41,272人。登録者数は利用カードを持っている人の数となる。北杜市図書館では、利用カードの更新を行っていないので、一度カードを作成すると本人の申請がない限りはデータ上に残っていく形となっており、71歳以上の登録者数が年々増え、多くなっている。今後も71歳以上の登録者数が増えていくことが予想される。

イは地区別実利用者数で、2021年4月1日～2024年3月31日までの過去3年間に図書館を利用した人の地区別実人数となっている。指定期間のうち1度でも利用すれば1とカウントされ、複数回利用しても1とカウントされた数字となっている。市外・県外利用者の割合が最も多く、続いて長坂、高根の順となっている。

ウは団体登録者数。令和5年度の相互貸借館は62館、210団体が団体利用登録を行っている。相互貸借とは、図書館同士が所蔵している資料を貸し借りすることを言う。団体登録ができる団体は、市内の読書サークル、ボランティアグループ、学校、保育園などとなっており、100冊まで

1 か月間の貸出しが可能となっている。

エは、図書館別の利用者数、貸出し冊数、蔵書冊数。延べ利用者数及び貸出し点数には、団体貸出し及び相互貸借の数は含まれておらず、個人貸出しのみの数字となっている。蔵書数は、視聴覚資料と雑誌は除いた図書数の合計となっている。また実人数については、月ごとの実利用人数を合計した数字となっており、延べ実人数となっている。例えば、一人の人が明野図書館を毎月利用した場合は、12とカウントされる。また、一人の人が同じ月に複数の図書館を利用した場合は、それぞれの図書館で1とカウントされる。貸出し冊数を見ると、金田一春彦記念図書館が62,513点と最も多く、1日平均で219冊の貸出しとなっている。延べ利用者数も同様に金田一春彦記念図書館が17,545人と最も多く、1日平均で61人の利用者数となる。

6ページから21ページまでは、図書館ごとの状況となる。令和5年度末の令和6年3月31日を基準に数字を出している。6ページの明野図書館を例に見方を説明させていただく。左上からの図書館の概要と開館の状況は記載のとおり。月別貸出し点数については、団体への貸出し数が含まれている。受入点数は購入と寄贈にわけて作成している。左下の分類別蔵書構成の中にその他資料とあるが、児童には、主におはなし会等で利用するエプロンシアターやパネルシアター、一般には主に一般マンガ等が含まれている。雑誌と新聞のタイトル数は、寄贈も含んだ数字となっている。7ページ。予約件数からマルチメディア利用状況までは、月ごとの件数を記載している。令和5年度の事業報告については、それぞれ開催した事業、定例で行っている事業、学校連携事業と大きく3つに分けて記載している。以下、むかわ図書館まで同じ形でまとめている。

最後に22ページ。市内物流（ヤマネット）の利用状況。ヤマネットとは、市内8図書館を公用車でまわる物流システムのこと、市の総務課及び図書館の2系統で運行している。市総務課で運行している物流システムを「メール便」と呼び、図書館で運行しているメール便と合わせて、この2系統を総称し、図書館では「ヤマネット」と呼んでいる。主に利用者が指定した予約資料を所蔵館から受取館に配送（貸出）し、利用者が資料を返却した図書館から所蔵館に返送（返却）している。文書という項目は、各館からあがってくる申請書や報告書等のいわゆる文書の数のカウントとなる。1年間の市内物流利用状況は表のとおり。北杜市図書館は、8館を1館としてとらえており、基本的には「複本（同じ本）は持たない」という考え方で選書を行っているため、資料の行き来が多く、物流の数も多くなっている。また、予約貸出しが普及し、自分の指定した図書館で予約本の受け取りや返却を行う利用者が増えていることも物流の数が多くなっている要因の一つではないかと考える。

事務局：報告は以上。その他詳細は資料を参照してほしい。

【質疑】

議長：質問、意見があればお願いしたい。

委員：4ページの6、北杜市図書館会議開催状況の選書会議について伺いたい。中央図書館総務担当2名、各図書館1名の計3名で行っているとなっているが、これは、固定した職員（司書）が行っているのか、それとも交代で行っているのかをお聞きしたい。

事務局：選書会議は、月に2回行っているが、次のような流れで行っている。まず、それぞれの図書館が自館で購入したい資料を週刊全点案内という新刊本が中心に掲載されている資料の中から選ぶ。この段階ではそれぞれの図書館の司書が自館で購入したいものをみんなと相談して選ぶようになっている。選び終わった後は、購入したい資料がだぶってくる場合があるので、重複して選ばれている資料をどこの図書館で購入するのかを決める会議を行う。それが選書会議。基本的に

は、事前に件名等で購入年月日を確認し、現在の所蔵が古い順に購入していくように調整している。その選書会議は、中央図書館総務担当の2名と各図書館の職員が1名ずつ交代で行っている。年24回実施するため、選書会議に関わる職員は偏った職員ではなく、全図書館の職員がまんべんなく出席するという形だった。

議長：よろしいか。

委員：中央図書館というのは、総務担当の2人が必ず入り、あとは各館交代で入るというスタイルということで承知した。もう一点お聞きしたいが、利用者の方から上がってきたリクエストの扱いはどうしているのか紹介いただきたい。

事務局：リクエストで上がってくる本の中には北杜市で所蔵しているものといないものがあるが、北杜市に所蔵がないものは、各館で確認をして入れた方が良く判断したものは選書会議に上がってくる。北杜市図書館で所蔵がなく、他の図書館で借りることで対応ができそうな資料に関しては相互貸借という形で利用者に提供する形をとっている。

委員：質問の趣旨はそのようなことではなく、新聞の書評欄で紹介されるような新しい新刊書を読みたいと思った際に、自分で購入するのではなくリクエストという形でお願ひした場合の扱いについてお聞きしたい。

事務局：そのような場合は、リクエストが提出された図書館から選書されて上がって来るので、新聞の書評欄に掲載されたような新刊本に関しては購入を検討するようにしている。賞を取った本などはリクエストが多く入るが、とりあえず1冊入れるという形を取り、予約が20件超えた場合に追加でもう1冊購入する形を取っている。

議長：図書館で購入する本は、図書館の職員が選ぶ他、市民からのリクエストで上がってきたものを含めて各図書館で欲しい本を集約して選書しているということ。地域の声は聞いているという理解でよろしいか。

その他、何かあるか。

委員：5ページに関わって、3年間のコロナ禍を経ての令和5年度ということで、図書館を利用する利用者は増えているのか。3年間は、外出を禁止されたり、いろいろなことが変わってきて規制された年で、図書館に限らず様々なことが変わってきていると思うが、その中で令和5年度は、図書館を利用する人が増えたことを予想しているが、どうか。

事務局：令和4年度の事業報告書に記載されている貸出点数は29万3629冊で、令和5年度が29万7232冊となっているので、若干増えたがほぼ横ばいという形となっている。令和3年度は、コロナ禍だったが、貸出し数は多くなっている。予約貸し出しが多かったことが予想されるが、30万8000冊程となっている。

別の資料になってしまうので、比較する数字が若干ずれてくるかもしれないが、図書館のあり方を検討した際に図書館の数字を出した資料を見ると、平成21年の全体の貸し出しが48万冊という数字になっている。それ以降どんどん落ちてきて、例えば中間地点の平成26年は37万冊で3万冊も落ちている。その後平成30年が約36万という数字になってしまい、そこから今度はコロナが始まり、令和2年が26万冊ということでガクンと落ちている。グラフの中でもその後は回復してきてはいるが、以前に比べると全体としてはかなり下がり気味となっている。ここ数年の動きを見ると若干戻しつつあるので、少しずつ増えているという意識もあるが、全体としては下がり気味。下がり気味の中で回復を頑張っているところ。

議長：この報告書の統計のデータが令和5年度のデータのみの提示となっており、比較した推移が分

からない状況がある。調べる方法にも違いがあり、延べであったり団体を含んだり含まなかったりと、様々な形で数字が出ているので、きちんとした推移というものが読み取りにくいかもしれないが、図書館の利用者数がどのように推移しているのかというところは大事な部分だと思うので、また様子を教えていただければ有難い。

その他いかがか。

委員：詳しい資料を提示いただき有難い。本を選ぶ選書会議を行っているということだったが、CDやDVDについて、図書館に行ってもあまり変化がなく、新しいものが入ってきているのかわからないが、視聴覚資料についてもその選書会議等の中で話し合われているのか。

事務局：視聴覚資料は毎月の選書会議ではなく、年に3回選書日を決めて決定している。視聴覚資料についても、図書館ごとに選定してきたものが重複した場合は、1館に絞って購入しているが、予算が限られているので、各館で1年間に購入できる点数も限られてくる。1館あたりDVDにすれば3タイトル、それプラスCDが1枚～2枚買えるかどうかというところなので、北杜市図書館全体を見れば毎年新しいものを購入しているが、一つひとつの図書館を見れば1年間に数タイトル程度の購入となるので、あまり新しいものが増えている感じがしないのではないかと思う。

委員：実情は良くわかるが、借りたいものがある程度決まっている場合は、それがどの図書館にあるのかを尋ねて予約することは出来ると思うが、図書館に来て見て決めるということも出来ると思うので、少しずつでも増やしていけるように、今後よろしく願いたい。

議長：よろしいか。他にあるか。

委員：最後のページの市内物流（ヤマネット）には自分自身もお世話になっていて、とても便利なものだと有難く思い利用させてもらっている。トータルで見ると貸出しもあるが、返却が結構多いということがこのページでの感想だが、返却の利用数が多いのがながさかや金田一。貸出しはすたま森の図書館が結構多いと思い見たが、貸出し数と返却数の利用の差について教えてほしい。

事務局：貸出しは、予約が入った図書を利用者が指定した図書館に運ぶという形で物流が動いている。返却は、主に市内のどこかの図書館に返却された本が所蔵館に戻ってくるという形になっている。図書館に向いて借りた本を、返却は借りた図書館ではなく最寄りの図書館で返すという利用者が多いために返却が多くなっているのではないかと考えている。

委員：納得した。

議長：8館ある中でこのような形で交流していることは、利用者にとっても有難いことだと思う。その他、何かあるか。

委員：要望になるが、今年度の事業実施状況には数字が入っているが、事業報告には参加者数等の数字が入っていない。もちろん数字で表せない事業もあるが、例えば、大人のための朗読会やまびこには何人参加があったか等、1年間を通して数字が出せる事業については、来年度からで結構なのでぜひ数字の記載をお願いしたい。事業報告書はホームページには公開はされているか。

事務局：本日の協議会終了後、北杜市のホームページに資料として公開する。

委員：了承した。以上。

議長：年度末の大きな事業については、参加人数も入れて欲しいという意見だった。

事務局：参加人数に関しては令和5年度の事業報告を各館の近況報告という形で、図書館協議会でも報告している。その中に参加人数や実施回数等の細かい数字は入れており、北杜市のホームページでも公開しているので重複するという意味もあり、事業報告書は今後もこれまで通り主な事業の記載という形でご了承いただければ有難い。

議長：この資料の中に、詳しいことは近況報告をご覧くださいという形で資料に記載してはどうか。
事務局：承知した。

その他、よろしいか。

議事1、令和5年度北杜市図書館事業報告については以上。

(2) 第四次北杜市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

事務局より説明

特に資料の用意はないが、令和6年度からスタートしている第四次北杜市子ども読書活動推進について、これまでの経緯を説明したい。進捗状況についてだが、策定委員会を組織し、これまで2回の会議を開催している。第1回目については、令和6年6月6日に金田一春彦記念図書館 SVホールにて開催した。内容については、第四次計画策定の経緯や、スケジュールについての説明、策定の根拠、国の計画及び県の計画の概要説明を行った。またスケジュールについては、全4回を予定しているということで説明させていただき、これまで2回の会議が終わった。今後は3回目が終了した時点でパブコメを行うので、それについての準備ということで第3回目の会議を開催する予定となっている。パブコメ後、修正等を受け第4回で固めていくというスケジュール感になっている。第1回目の会議の中では、第3次の計画の成果と課題についての検証を行った。またアンケートの調査の内容と回答について、第四次計画に向けた数値の集計の確認を行った。第2回目については令和6年8月22日に開催した。内容については、第1回目で検証した内容を基に、第四次計画の草案を作成し、その内容について検討検証いただいた。様々なご意見をいただいたところであり、現在はその修正作業を行っており、第3回目の会議に向けての準備を進めている。第2回目の修正をしたもの第3回目の会議で諮っていくといった内容になっている。現在の進捗状況については、以上。

議長：事務局の説明について委員の皆さんからの意見、質問はあるか。

委員：質疑なし。

議事2、第四次北杜市子ども読書活動推進計画の進捗状況については以上。

(3) 各図書館の近況報告について（こども図書館まつりの準備状況など）

事務局より資料2に基づき説明

まず最初に1ヶ所付け足しをお願いしたい。2ページ目明野図書館の実施状況No.10、7月26日に実施された「わくわくどきどきおはなし広場」の内容が空欄になっているので、「劇団バクによる大型着ぐるみ人形劇「みにくいアヒルの子」と記入をお願いしたい。続いて各図書館の近況報告に移る。全体事業としては毎年取り組んでいる読書マラソン、ブックリストの作成、乳幼児健診に合わせて行うブックスタート、また図書館ボランティアの資質向上のためのボランティア研修などがある。令和6年度ということで、まだ実施途中ではあるが、ボランティア研修については既に終わっており、今年度は山梨子ども図書館の理事長である宮崎さなゑ氏を講師に迎え、「読んでもらう楽しみ～読み聞かせの選書と工夫～」と題して、実践を交えてのお話を伺うことが出来た。熱心なご指導をさせていただき、大変勉強させていただいた。この全体事業の内容については本日の議事1で報告させていただいたので、内容の詳しい説明は省略する。

今後の全体の事業の主な予定としては、12月15日(日)に市制20周年記念イベントとして、北杜市こども図書館まつりを計画している。ミュージシャンであり、翻訳家の大友剛氏に出演を依

頼しており、当日は絵本をメインにした音楽とマジックと絵本のコンサートという内容で開催する予定で準備を進めている。委員の皆様にもぜひご覧いただければと思っているので、ご都合つく方は、ぜひお越しいただきたい。

2ページ以降は8図書館の事業実施状況で、8図書館それぞれが計画した今年度の年間計画に沿って、工夫を凝らしながら事業に取り組んでいる。また、それぞれの図書館で職場体験の生徒を受け入れるなど、地域の学校と連携をとりながら事業を展開しており、現在も各館それぞれのイベントを実施している。説明については以上。

【質疑】

議長：事務局の説明について委員の皆さんからの意見、質問はあるか。

委員：令和5年度の事業報告にも出ていたが、金田一春彦記念図書館で8月に終戦特集パネル展を行っており、昨年のはたかね図書館やライブラリーはくしゅうでも行っていたようだが、今年は金田一とながさか図書館で行っている。このパネル展は図書館を回していくような形なのか。というのは、いろいろな図書館でもっと同じ資料を活用し、例えば8月ではなく時期がずれても、全ての図書館を回してもいいのではないかと思ったのだが、年1回金田一とどこかの図書館で行うという流れになっているのかどうか、その辺りを伺いたい。

事務局：このイベントに関してということか。

委員：はい。毎年どのように回しているかということ伺いたい。

事務局：毎年図書館を回すということではなく、元々は金田一で行っていた。コロナが明け、ここ2、3年は金田一と他の図書館、今年でいうと金田一とながさかで行っている。その年によっていくつかの図書館をまたいでいるが、今年度で全ての館でひととおり展示等が終了したという形になる。来年度以降、どこの図書館で開催するのかは、金田一が協力して行っている団体と話をすることで決定していく。来年度以降、金田一のみになるのか引き続き別々の図書館で2、3協力して行うのかは、現在のところ事務局では把握していない。このことに関しては来年度の事業計画になってくと思うが、そこは各館に任せており来年度の計画によると思う。

議長：よろしいか。

委員：個人的にはぜひ続けて欲しいし、資料の入れ替えなどができるのであれば入れ替えてまたもう一度全部の図書館を回すことが出来ると良いと思う。同じようなことで今ウィキペディアタウンも各館を回っていると思うが、それと同じように、いろいろな図書館で事業が実施出来ると良いと思う。例えば一つの図書館の事業を考えると、その図書館の職員がアイデアをひねって、今年は何しようかなど、アイデアを出すことが多分大変だと思う。そう考えると、ウィキペディアタウンや戦争特集等は、同じネタをいろいろな図書館で行っても、同じ方が同じ場所に行くわけではないので、図書館同士で回していくことは良いのではないかと思う。

事務局：ウィキペディアタウンについても、図書館の司書が研修を受け、最初は金田一図書館で始めた。その後、良い事業なので金田一だけではもったいないという意見もあり、北杜市も広いことから、各町を回すこととなった。事業についても、最初は各館で予算を持ち、それぞれの司書が対応したり、既に行った図書館の司書が手伝いに行ったりしながら実施していたが、今年度からは中央館で予算を持ち、今年度はすたまで行うが、明野でもむかわでも開催出来るように、計画を立てている。委員の意見にもあったように、今後も各館で共通して行えるようなイベントは、積極的に行っていけるように、図書館運営会議等でも司書に話をし、協力して行えるイベントを増やしていきたいと考えている。以上。

議長：せっかく8館あるので、共有できるものは共有しながら事業を展開していく。一方で図書館の特色というものもあるので、全てが全く同じようには出来ない部分はあるかもしれないが、各館の特色をまた別の館でも知ってもらうことも有意義なものになるかと思う。

その他何かあるか。

委員：各館の事業を見る中で、全体もそうだが各8館の事業も工夫がされていて、楽しいことをたくさん実施していて素晴らしいと思う。一方で内容が乳児、幼児、保育園、小学校、中学生ぐらいまでのものが多いと感じる。北杜市市民全体を考えると、一般に向けたものがもう少しあると良いと思う。資料にも展示、ブックリサイクル、特定な方向けのマタニティカフェ、ボランティア向けなどがあるが、図書館に足を運んでもらえるような啓発や参加型の事業を何か出来ると良いと思う。12月には大友さんのイベントがあるということで楽しみにしている。以前、まだ北杜市になる前にはすたま図書館で、くどうなおこさんや寺村輝夫さん、上橋菜穂子さん等呼んだイベントがあったことを覚えている。予算のこともあると思うが、大勢の人が興味を持てるような事業が出来れば良いと思う。

事務局：令和6年度の途中経過までの実施状況を見ると、割と小さい子向けのイベントが多く掲載されているが、各館それぞれのイベントの計画はそれぞれの館に任せおり、前年度に次の年の事業を考えながら計画を立てている。今後、今年度に関しては早速来月の終わり頃にながさか図書館で例年行っている図書館de落語会、たかね図書館でも一般を対象にした講演会も計画されており、一般の方が対象のものもある。こども図書館まつりと言っても、子どもだけではなく一般の方も参加していただけるものもある。また、大人のための朗読会やまびこのように、毎月定例のイベントや、冬になると白州でも地域の方と一緒にやる大人向けのイベントもある。万人受けするイベントという計画が難しいところがあり、どうしても対象者が子ども向け、大人向けになってしまう。事務局としては中高生にもできるだけ足を運んでもらいたいというところがあるので、そこに苦慮しながら運営しているわけだが、なかなか平均的というところまでいかないが、一応各館で事務局も含めてバランスを考えながら事業を運営できるように心がけている。このような回答でよろしいか。

議長：バランスを考えながら運営しているとのこと。いいアイデアがあったら、届けるということも大事だと思う。

他にいかがか。

委員：質疑なし。

議事3、各図書館の近況報告について（こども図書館まつりの準備状況など）は以上。

（4）その他

議長：その他、手持ちの議事はあるか。

事務局：なし。

委員：前回の開催時に利用者の懇談会をぜひ再開してほしいということ、また個別の図書館、懇談会を開いてほしいという要望を出しているが、事務局からは検討するという回答だったので、現在どのような考えなのかを聞かせてほしい。

事務局：検討してきたが、現時点では具体的に開催するというところまでは至っていない。引き続き検討していきたい。以上。

委員：検討中ということなので、懇談会について参考までに申し上げたい。全体の懇談会はコロナ前

は年に1回程度開催されていたようだが、実は個別に関しても、過去に白州の市民グループが主催したような懇談会が開催されていたようだ。以前図書館協議委員をしていた委員から譲り受けた平成22年頃の資料の記録によると、金田一春彦記念図書館とライブラリーはくしゅうの司書をゲストに招き、「もっと知りたい我が図書館講座」としてテーマが選書、資料の流通、レファレンス、その後、フリートークというような形で個別の懇談会を開いている記録があった。図書館の主催ではなく、市民グループが主催したものだったようだ。そのような前例もあることなので、例えば小淵沢の方で実施したいという希望が強いようなので、そちらの市民の方から要請があって、時間が作れるようならば個別の懇談会を開いていただきたい。個別に関しても時間が作れないというようなことをおっしゃっていたようだが、もう一度考え直していただければと思う。

事務局：少し話の整理をしたいが、今まで利用者懇談会を開きたいというただ漠然とした意見のように聞こえていて、具体的にどうなのかという話はなかった。今委員の方から白州の例を出し具体的な話をいただいたが、そのような話であれば、明野で既に昨年開催している。図書館再編の関係もあった中、明野の市民グループが自主的に懇談会を行っている。今の委員の話は、市民グループが行った白州の話なので、小淵沢でそのようなことを行いたい方がいた場合には、行っていただいても構わない。明野で開催されたときも、司書が少しの時間参加したということもあるので、司書に話を聞きたい場合は事前に申し出てもらえれば、日程調整も不可能ではないと思う。ただ、現在北杜市8つの図書館に分散して司書が配置されている中で、どこの図書館も非常に厳しい人員配置の中で日々業務を行っているので、会議の最初から最後まで参加するという事は難しいかもしれない。内容を伝えたいということがあれば、実施後に報告をいただければ参考になる。市民グループが主催する個別の懇談会は明野でも既に実績はある。図書館に実施してほしいということだけでなく、市民グループで行うことは全く問題ない。例えば大泉の場合は、図書館の部屋を貸すことは出来ないので、大泉総合会館で実施いただくなり、小淵沢は生涯学習センターで実施すれば良いのではないかと。そのことに関しては、全く問題ないと思う。市民の活動は大いにやっていただければと思う。そのような回答でよろしいか。

懇談会以外のことでも、例えばこんな本が読みたいとか、図書館の雑誌のコーナーがうるさいとか狭いとか、そういうことを具体的にしっかり言っていただきたい。ただ漠然と懇談会開催を望むのではなく、具体的に言っていただければ具体的に返すことができると思っている。

議長：よろしいか。

委員：回答に対して、大変有難く思う。懇談会は図書館で開催しなければいけないと思い込んでいた。

今後はそのようなことでよろしくお願ひしたい。もう一つ。前回図書館の取説ということも申し上げたが、それも前向きに考えるという話をいただいたがどうか。

事務局：以前、市民の団体の方から、利用者懇談会を開催してほしいと言われ、話を聞いていく中で、図書館ツアーとか、図書館取説といった図書館の利用の仕方の様な講座を開いてもらいたいということに辿り着いた。そういうことであれば、今言ったような具体的な要望になるので、開催も可能かと思い、前向きに考えると答えた。その後、担当にそのような話もしてみた。ただ各図書館で既に年間計画を組んでいるので、現在のところそれが組み込まれてないのは事実。今後、各館の中で全体のバランスを見ながらという形にはなるが、組めるようであれば考えたい。各館には、協議会の中でもこのような話があったということをお伝えたいと思うので、本日はこの程度でお願いしたい。

議長：よろしいか。他に何かあるか。

委員：9月7日に南アルプス市の図書館を見学した。その中で北杜市としてぜひ取り入れてほしいと思ったところが4点ある。現時点で答えられる範囲で結構なので、館長の考えを聞かせてほしい。

1. 第1回協議会でコミュニティ・コモンズの否決に関して精査中という回答をいただいているが、精査の進捗状況をお示しいただきたい。
2. 図書館協議会の委員の選任方法について。北杜市は合併後、図書館所在町から1名ずつ8名を選出してきたのにもかかわらず、地域にこだわらず北杜市全体の視点が必要ということで2期続けて委員不在の町がある。元に戻し各町1名とした方がより市民、地域の声を届けやすくなると思うので、見直しをお願いしたい。また、地域住民の声を図書館運営に反映させるという考え方に転換してほしい。
3. 司書の処遇について。会計年度任用職員という不安定な身分に置かれている。これでは図書館の活性化は望めないと思う。また異動も多いように思うが、そのようなことでは腰を据えて業務を行うことができないと思うので、本人の事情でやむをえない場合を除き、もっと長期にしてはどうか。北杜市図書館の活性化のためにも、司書の処遇改善、長期の身分保障、正職員化に前向きに取り組んでほしい。
4. 図書館資料について。合併当時と比べ3分の1位までに落ち込んでいる資料費を大幅に増やしてほしい。寄贈本の数が購入数の3分の1を占めているという現状もある中、来年度予算の編成時期を迎えている今、館長の尽力をお願いしたい。以上。

事務局：4点について回答する。

1については、議会でも生涯学習施設のあり方がよく見えていないということや、少し時期が早いのではないかということもあったので、現在は、多くの方の意見を取り入れるためにどうすればいいのかというところを、継続的に考えていきたいと思っている。例えば図書館を利用していない方も含めた意見の取り方、また中高生への取り方等、知恵を絞ってなるべく多くの方からの公平な意見の集約に努めたい。その他課題が山積しているので、課題をしっかりと出して意見をいただくことが大切だと思っており、その辺りを今精査してる。

2の選任について。協議会の委員は要綱で決まっております、人選に関しても規定がある。人数についても8名以内ということが条例でうたわれているので、その条例に従って選出していく。委員が不在の地域があるということで問題提起をしているが、現在は合併して何十年も経過しているということも踏まえ、やはりそこは北杜市全体を見ていただくということで、特に地域にこだわった考え方は現在持っていない。条例に従った中で選出していく考え。例えば、このような意見をいただいた委員自身も、自分の居住している町のことしか意見を言わないということではなく、いつもしっかりと全体を見てお話をいただいている。各委員も、自分の地域だけのことを言っているとは思わない。その他、より活発な意見をいただけるような工夫をというところであれば、それはしっかりと受け止めて行っていきたいと思う。

3. 司書の処遇について。前回は申し上げたとおり、今司書は会計年度任用職員という雇用となっており、処遇が上がってきている。今年度も世の中の景気が上がってきている分も含め、人事院の勧告も出るのではないかと考えているので、多少ベースアッププラスアルファの部分もまた見込めるのではないかと考える。ただ市の方針としても、正職員を現場に配置するということは現段階では考えていないので、正職員については中央館で全体を取りまとめるといった内容になっている。南アルプスのように中央館に7人8人職員がいれば有難い話だが、やはり全体市全体を見る中で、7人とは言わずとも例えばあと1人配置してほしいという要望はしていきたいと思っ

ている。職員の処遇改善、環境改善も含めて、気をつけていきたいと思っている。

4. 資料について。資料については、どうしても市全体の財政改革の中で減ってきているという事実はある。ここ数年は、何とか現状維持もしくは微増となっており、何とかこれ以上は下げないということで頑張ってきているところ。理想を言えば、今の予算の3倍ぐらい欲しいという思いはあるが、やはりここまで来ていることが現状。いかにこの中でより良いサービスを行っていくかというところに着眼をしている。だからといって下がっていてもいいということではなく、財政とも協議をしっかりとしていきたい。私自身行政の方に長くいたので、財政の理屈ももちろん分かる。だからその中で予算確保をお願いをしたり、図書館の事情も説明していきたい。その中でサービスという面を見ると、現在資料と人が分散してしまっているというところが課題の一つであると思う。先ほど委員の中からも、実際に見て選びたいという意見があった。パソコンに慣れている方や目的の資料がある方は、検索して予約するという使い方もちろんあると思うが、やはり実際に現場に行ってみて選びたいということももちろんあると思うので、そのような点からも図書館のあり方というのは非常に大事だと思っている。委員には本当に良い意見をいただいたと思っている。以上。

議長：他にいかがか。

委員：委員の意見は素晴らしいと思って聞いていたが、できれば事前に質問の話をしてもらえれば、事務局も急に資料を探すということもなく、十分な回答を用意出来たように思う。時間にも限りがあるので、まとめていただいた質問を事前に事務局に出していただければ会がもう少しスムーズに進むのではないかなと思う。以上。

議長：他よろしいか。

委員：質疑なし。

議事4、その他については以上。

閉会